

2023年度 第2四半期 会社説明会

<主なQ A>

Q. 持続的な収益力について、今回の決算を踏まえ、どの程度だと考えているのか。今期の経常利益見通し5,700億円から燃調タイムラグ影響を除くと4,000億円を下回る程度、来期は原子力利用率が上昇する可能性もあるが、いかがか。また、潜在的なリスク要因についてはどう考えるか。

A. 持続的な利益水準について、まさに今、前提を置いて分析しているところである。例えばイスラエル情勢等、引き続きリスク要因はあるが、将来を見据えた財務の状況を見定める最中にある。

Q. 今期見通しのFCF4,800億円に対し、燃調タイムラグ影響を除いても3,000億円台程度のFCFが継続的に出るとはならないかと考えるが、有利子負債の削減にあたり、毎年どの程度を返済に充てるのか。また、有利子負債4兆円以下に向けた時間軸は。

A. 将来的に、データセンター等、規模の大きい投資も考えられ、キャッシュ配分のバランスを考えたい。具体的な時間軸はお示しできないが、可能な限り早く自己資本比率を高め、将来の投資も拡大できるような構造にしていきたい。

Q. 自己資本比率30%以上を目指すとのことだが、その場合のROEについてはどう考えているか。8~10%で満足ということかもしれないが、それでは足りないという感覚を持っている。

A. しっかりとした財務体質の下で、利益を上げてまいりたい。8%で満足ということではなく、より上を目指したい。

Q. 有利子負債4兆円以下、自己資本比率30%以上を目指すとのことだが、それに達するまで、株主還元積極的に取り組む局面ではないという認識か。

株主還元を検討する上での目安や基準を提示して欲しい。

A. 還元消極的ということではない。安定的に配当することを株主還元の基本的なスタンスとしており、昨年も50円配当を実施した。持続的な利益水準を分析している最中であるため、現時点では50円配当を維持しているが、利益水準を見定めた結果によって、有利子負債の削減、成長投資と併せ、株主還元についても検討していく。

Q. 実力の利益水準を検討中という状況が続いている。3, 000億円から4, 000億円の間で確たる見通しが立たないという状況は理解できるが、それぞれのシナリオを作ったうえで、株式市場が期待する財務パフォーマンスについてアナリストにヒアリングをして、それを踏まえて自己資本比率上昇のスピード感を示して欲しい。

A. 不確定ではあるが現行の中期経営計画の財務目標をクリアできることが見通せる状況となっており、少なくとも財務目標をどうするのかは、まさに検討するタイミングに来ている。その検討の中で皆さんのご意見をお聞きするということも考えていきたい。

Q. 販売電力量の見通しについて、競争力が高いにも関わらず、前回予想から電力分野が減っている理由は。

A. 需要数影響は大きく変わらない。足元のご使用量が減少している状況を踏まえた見直しである。

Q. 高浜発電所3号機の定期検査における、蒸気発生器伝熱管の損傷について、現状認識は。

A. 工期について具体的に申し上げられないが、過去に経験している事象であり、これまでの知見を活かしながら、しっかりと対応してまいる。

Q. 原子力利用率について、定期検査の工程を踏まえると、来期は80～85%程度が一つの目安ではないかと思っているが、来期もリスクを織り込んで評価した方が良いのか。

A. 定期検査工程に加え、機器の取替等が必要になる可能性もあり、実態を踏まえ、不確定なリスクを織り込んで設定するのではないかとと思っている。

以 上